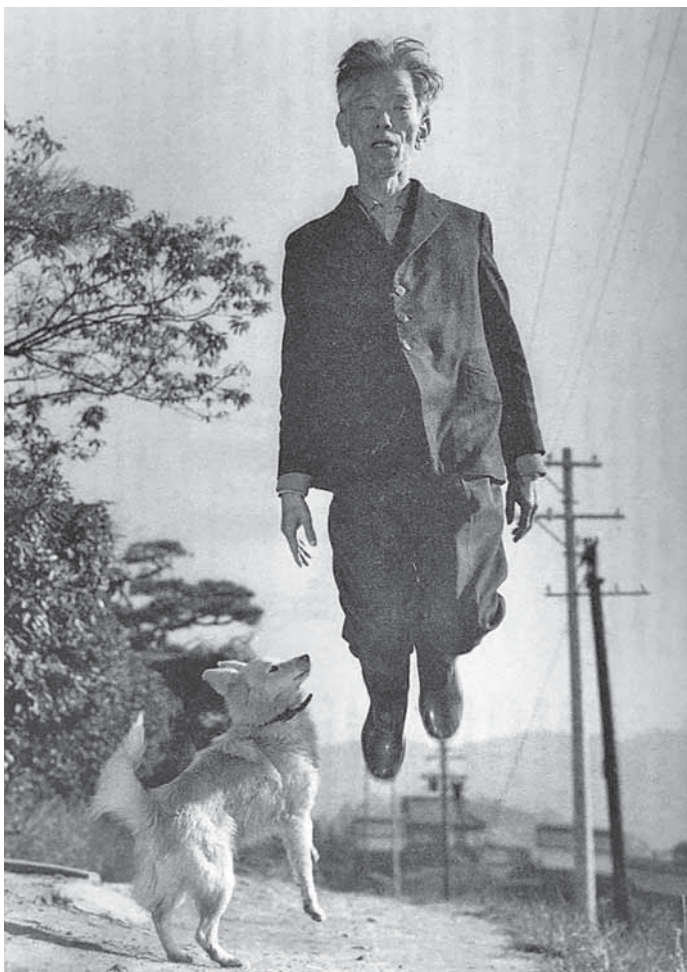




生誕
百二十周年

世界が認めた数学者

おかきよし
岡潔博士



▶紀見村にて（提供：朝日新聞社）

世界的数学者で橋本市名誉市民の岡潔博士をご存じでしょうか。岡潔博士は、数学に情熱を注ぎ、世界の誰もが手に負えなかつた難問を一人で解明し、世界の名だたる数学者を驚かせました。今年、岡潔博士の生誕百二十周年にあたります。そこで、岡潔博士の業績や人柄など、その魅力を紹介いたします。

【生涯学習課】

岡潔数学WAVEの活動を紹介します

橋本市岡潔数学WAVEは有志の市民で構成される団体で、数学分野のみならず日本文化や道徳教育の面でも社会に影響を与え続けている岡潔博士の業績を顕彰されています。また、「算数・数学が楽しい、面白い」と感じる子どもたちが一人でも多く育ってほしいという願いから、数学教育の推進を中心に、文化を育むまちづくりに貢献する活動が行われています。その顕彰事業についていくつか紹介します。

令和の新企画 箴言かるた

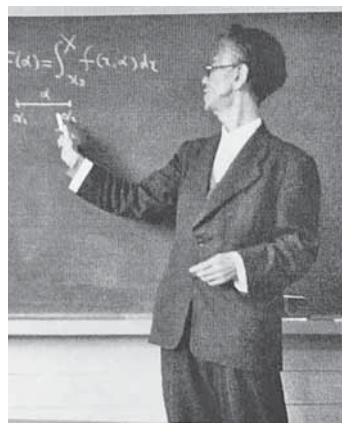
郷土の偉大な先駆者であり、世界的数学者である岡潔博士の心の世界の教えが、「広く」そして「長く」伝えられるように「箴言かるた」を制作しました。

博士の箴言には難しい言葉も含まれていますが、短歌の調べとやさしい絵解きにみちびかれ、「岡潔博士の深い思いに心が動かされた」という声も寄せられています。

2月28日、箴言かるた大会を開催しました。今後も岡潔博士の偉大さを別の角度から理解していただけるように、大会を継続して開催する予定です。



▲岡潔先生の箴言かるた



▲提供：奈良女子大学

数学に生きた岡潔

岡潔博士は、1901年に大阪府大阪市で生まれ、和歌山県紀見村（現橋本市）で育ちました。1925年に京都帝国大学理学部を卒業してすぐ講師に就任します。4年後には、同大学助教授になり、フランスに留学しました。留学中に人生のテーマを「多変数函数論」と決め、1932年に帰国し、広島文理科大学（現広島大学）助教授となります。1938年、広島文理科大学を辞めて紀見村に帰り、本格的に研究を開始しました。

それから20年の歳月をかけて、世界中の誰もが手に負えなかつた難問を一人で解決します。1949年、奈良女子大学教授になり、1964年、同大学名誉教授になりました。

岡潔博士が研究した「上空移行の原理」や「不定域イデアルの理論」は、現在も多くの研究に影響を与えています。

岡潔博士の箴言に触れてみませんか

岡潔博士は、数多くの著書を残し、取められたメッセージは現在も変わらずに私たちにさまざまなことを語りかけてくれます。その一つを紹介いたします。「よく人から数学をやって何になるのかと聞かれるが、私は春の野に咲くスミレはただスミレらしく咲いているだけでいいと思っています。私については、ただ数学を学ぶ喜びを食べて生きているというだけである。その喜びは発見の喜びである。」（春宵十話）。

これは「何にでも意味を求めるのではなく、自分らしく生きていればそれでいい」という教訓だといわれています。このようなメッセージに、もっと親しんでもらおうと、毎月、「岡潔箴言教室」を開催しています。著書を朗読したり、感じたことを語り合ったりしていますので、興味のある人は、事務局（中央公民館）へお問い合わせください。



岡潔博士の業績を後世に

岡潔博士はその功績をもって数学界に大きな影響を与え、橋本市で最初の名誉市民となりました。また、ベストセラーとなった「春宵十話」を始め多くの著書を残すとともに、日本人の情緒の大切さなどを訴えかけました。

しかし、1978年に逝去された後、それから40年以上が経ち、市内でも岡潔博士を知らない世代が増えているというのが現状です。

そこで、橋本市において、岡潔博士を称え、その功績を後世にまで残し、一人でも多くの人に岡潔博士を知ってもらうために、記念館の開設を目指しています。

橋本市の財政状況などを考慮した結果、市の力だけでは建設は厳しいため、現在は、寄附金の受付および開館の候補地を選定しているところです。

記念館が開館すると、他府県からの来客も期待できるため、地域の活性化につながります。今後も岡潔博士の顕彰活動にご理解ご協力をお願いします。

問い合わせ

- 生涯学習課 ☎33313704
- 中央公民館 ☎3210034

120th 記念事業

橋本市岡潔数学WAVEでは、岡潔博士の生誕百二十周年を記念し、本年度において次の事業を行います。

- 箴言かるた大会 リモートにて全5回（6・8・10・12・2月に開催予定）
- 岡潔講演会
- 数学を語る リモートにて全5回（6・8・10・12・2月に開催予定）
- 算数教室 リモートにて開催予定



▲第1回箴言かるた大会の様子



▶名誉市民受章時の岡潔博士

人の中心は情緒
1960年、文化勲章を受章し、岡潔博士の名は全国に知れ渡ることになります。そして、翌年に橋本市初の名誉市民となりました。文化勲章受章の頃から、岡潔博士の関心は、次第に数学研究から「このころの世界の解明」へと移っていきます。1962年に最後の論文を発表後は、数学研究をやり終え、日本の将来を案じるかのように、講演や執筆などの活動を意欲的に行います。数ある著書の中でも、岡潔博士の最初の著書「春宵十話」は、今もなお、読み継がれています。岡潔博士は、本書で「人の中心は情緒」といい、数学や教育に対する考え方などを訴えています。岡潔博士の数学の業績や思想・哲学の世界は、計り知れないほど深いものです。